

○八管本部長の江口です。

○本日は、八管区としては初めての試みとして、海上保安学校での記者懇談会の開催となりました。

○本日は、出張のため不在としている学校長が海上保安大学校の同期で同姓。公私ともに良好な関係が反映し場所をお借りしての開催ということもありますが、発表事項が、八管区本部としても最重点課題としている学生採用ということで、こうしたセッティングになりました。宜しくお願いします。

○先月28日開催の定例懇談会后、管内では、27隻の船舶海難、12人の人身海難が発生したほか、北朝鮮からのものと見られる漂着船事案件がありましたほか、大雨で警戒を高める場面もありましたが、概ね平穏に推移しております。

なお、先週17日には予定どおり、日韓 SAR 訓練が日韓中間線付近海上で実施されました。カウンターパートである東海地方海洋警察庁のキム・ヨンモ庁長からは、訓練後韓国プレス向けに「コロナ19により緩む隣接国間の協力関係をぐっと掴み、自国民の生命と財産保護、国際捜索救助力を強化するため第八管区本部と一層緊密な協力体制を維持していく」とのコメントが出されています。環日本海をめぐる国際関係はコロナウイルスの影響もあり、ますます不安定性が増してますが、当本部といたしましても、2007年両機関間で締結した協力協定の理念に基づき、現場機関どうしの連携を確たるものにしていきたいと思っております。

○さて、本日は、京都府ライフセービング協会ライフセーバーの方の活動報告、デモンストレーションを予定しております。

○日本ライフセービング協会様とは、私が本庁の初代安全対策課長を務めた平成28年、29年の間に協力関係を構

築、具体的には、28年11月には、海の安全推進アドバイザー制度を創設して日本ライフセービング協会の石川理事を海上保安庁のアドバイザーとしてお迎えし、29年3月には同協会と海上保安庁との間で業務協力協定を締結しています。その枠組みの中で、八管区内、各エリアでも連携しているところです。

○今シーズンは、コロナウイルス関連で、八管管区内でも現段階で約4割の海水浴場の不開設予定という事情に加え、ライフセーバーの個々の方々にも様々な影響があり、通常の活動体制が確保できないといった特殊な状況にあります。

学校教育もひっ迫しており、子供たちに対する安全啓発、プールを使っての安全教室等が開かれていない状況ということも重なり、今期の水難事故の多発を懸念しているところです。

○八管区内、海水浴場の管理者である各自治体においても、不開設海水浴場の安全対策に関し検討会議等が順次開催されている状況にありますが、全国的に見ますと、例えば、神奈川県では、先週金曜日に日本ライフセービング協会との間で今夏の海岸の事故防止にむけ包括協定を結び、広報、看板設置、警備員とライフセーバーによる海岸パトロールの実施、水上オートバイと遊泳者との接触防止のためのゾーニング、ドローンによる監視・救命活動の検討を進めるなど、先進的な動きもみられるので、こうした情報も各機関に提供して対策を模索していきたいと思えます。

○私も現場一線で様々な水難事故に対処してきましたが、お子さんが犠牲となった事故については、特に悲しい記憶として心に刻まれています。事故の撲滅に向け活動を強化したいと思えますので、報道の皆様のご協力も引き続き宜しくお願いします。